

## 第3回神奈川県水道ビジョン検討会 開催結果

### 1 会議名

第3回神奈川県水道ビジョン検討会

### 2 開催日時

令和4年11月2日（水）14時30分～16時15分

### 3 開催場所

神奈川県庁西庁舎8階 健康医療局 局会議室1

### 4 出席者

小泉 明（東京都立大学 都市環境学部 特任教授）【会長】

長岡 裕（東京都市大学 建築都市デザイン学部 教授）

佐藤 裕弥（早稲田大学大学院 准教授）

浅見 真理（国立保健医療科学院 上席主任研究官）

### 5 開催結果

別紙「第3回神奈川県水道ビジョン検討会 議事録」のとおり

## 第3回神奈川県水道ビジョン検討会 議事録

## 1 開会

事務局より配布資料の確認を行った。

## 2 議題

## 議題(1) 神奈川県水道広域化推進プランの策定について

事務局から、資料1により説明

## 【補足説明】

## (事務局)

神奈川県水道広域化推進プラン（以下、プランという。）素案の事務局案について、水道事業者から、大きく2つの意見をいただいた。

1つ目として、③経営の一体化と④事業統合は、現在検討しておらず、検討の予定も無いため、検討対象、シミュレーションから削除等して欲しいという意見があった。

この意見の対応としては、広域連携を推進する県としては、多様な広域連携パターンの効果を示すことが重要と考えているため、削除しないこととした。国の通知でも、様々な広域化パターンを検討することとされている。

なお、この意見とは反対に「素案のとおり、事業統合を含めた様々な連携パターンを示すことが望ましい。」という意見もあった。

次に、2つ目として、『持続可能な「かながわ水道」』は最終的に県全体で水道事業を統合するように誤解されるおそれがあるため、表現を修正して欲しいという意見があった。

この意見の対応としては、『持続可能な「かながわ水道」』の表現は修正せず、誤解が生じないように注釈に『持続可能な「かながわ水道」』の説明を記載した。

## 【質疑】

## (長岡委員)

33 ページ「表2-13 水需要推計ベースにおける広域化パターンごとの料金指数」であるが、県東部圏域については、現行の経営形態を継続した場合が233.0円であるのに対して、「①施設の共同化」が227.8円となっており、そこまで減少していない。「①施設の共同化」は、29ページの※参考1をもとに試算したのか。

**(事務局)**

お見込みのとおりである。

**(長岡委員)**

上流取水をしてダウンサイジングするため、効果があるように思えたが、そこまで効果が大きくないのか。県西部圏域は水源が違うため分かるが、県東部圏域は削減幅が少ないという印象を受けた。理由を教えて欲しい。

**(事務局)**

32 ページ「表 2-12 水需要推計ベースにおける広域化パターンごとの費用削減額」に金額を記載しているが、県東部圏域は、「①施設の共同化」によって建設改良費 800 億円が削減されるものの、45 年間の費用の合計額は 4 兆 4800 億円ほどかかるため、割合としてはその程度になる。

**(長岡委員)**

了解した。

**(佐藤委員)**

事務局からの説明を受けて、水道事業者の意見を踏まえて、今回の資料が作られたというところは理解した。確認の意味で質問するが、40 ページ「表 3-1 今後の広域連携に係るスケジュール」として、11 年目以降も緑色でハイライトされているように、「②管理の一体化」や「③経営の一体化」の検討というところで、今回のまとめ方がこれから 10 年にわたって「検討」するということが良いのか。着地点・目標が、はっきりと打ち出せない状況になっているが、それはやむを得ないということか。

**(事務局)**

広域連携に係る取組は、息の長い取組であるため、継続した検討が必要となり、このような記載としている。検討中とはなっているが、この間に取組まれる連携方策も想定される。

着地点は、連携方策の何をやるかではなく、あくまでも水道事業の持続と考えている。多様な広域連携の積み重ねにより、水道事業の持続を目指していく。

**(浅見委員)**

様々な調整があり、今回資料をお示しいただいたのは了解した。

32 ページの県東部の建設改良費について、4 兆 4800 億円に対して、広域化で 800 億円削減という説明だった。広域化すると、建設改良費 45 年間の合計額か

ら 800 億円が削減されるという理解でよいか。

**(事務局)**

お見込みのとおりである。

**(浅見委員)**

また、23 ページ「図 2-19【県東部圏域】更新需要の見通し」を見ると、一定額に平準化されて更新する形になっている。人口とか給水量の減少を踏まえると、こういう記載方法で良いのかと思った。地域で細かく見ていくと、大きく状況が変わると思う。ここの考え方を教えて欲しい。

**(事務局)**

事務局の試算は圏域ごとにまとめたものであり、具体的にここでダウンサイジングの計画があるからそれを見込むといった試算はできていない。

アセットマネジメントでは、工事を前後させて、平準化させる形に持つていくことが多く、アセットマネジメントに近い考え方をしたとご理解いただきたい。

**(浅見委員)**

アセットマネジメントの標準的な実施方法は、同じ施設を同じように維持していくことをベースで算出するというのは理解するが、プランの中に今後の給水量の見込み等も記載されていたので、その整合性が気になったのでお聞きした。今回の試算の考え方は理解した。

次に、32 ページに記載の 45 年間で 800 億円の費用削減額であるが、どのように「①施設の共同化」を実施すると、この数字になるのか。企業団のビジョンで書かれている施設の見直しや上流取水を見込んでということによいか。

**(事務局)**

その通り。企業団のビジョンでも、具体的にどういう順番でというのは記載されておらず、あくまで 800 億円削減効果があるということが再構築の効果と示されているだけなので、事務局が試算する際の決め事として、800 億円を単純に 45 年間で割り、今回は平準化した形の更新需要を考えているので、1 年当たり約 18 億円更新需要を下げるという算出を行っている。

23 ページに県東部の更新需要として、将来年間平均で 1022 億円かかるというグラフになっているが、ここから 18 億円削減されて、毎年度、1004 億円となる試算で財政収支の見通しでバランスをとった場合に、必要となる料金上昇という出し方をしている。

### (浅見委員)

それでは、広域化パターンごとにこのような図を描いた場合、線が少し低くなるという理解でよいか。

個別にはそれぞれ状況が違うので、今後その点は見えていかなければいけない。また、共同化した場合のメリットあるいはデメリットを事業者の方でも把握できるような形にする必要がある。特に共同化しないと今後事業を継続していけない所が出てくると思うので、そのような所に早く理解してもらえるようになると思う。

### (事務局)

ご指摘いただいた点については、39 ページのイの「(イ) 水道事業者等への個別支援」の項目に記載しているが、アセットマネジメントを実施していない事業者もいることから、その技術支援を県として行っていこうと考えている。

### (小泉会長)

浅見委員のご指摘の通り、日本全体を考えても都市部と地方の過疎化が進んでいる地域があり、そのような地域をどうしたらよいかという議論がある。つまり本当に困っている所を全体の中でどう考えていくのかというのが広域化の議論の中で大切な点だと思う。

全体で考えるという話は、昭和 53 年頃に水資源が枯渇して共同で新たな水資源を開発しようという時代があった。その時には共同化してみんなで水量を確保していこうという流れがあり広域水道が進んだが、今は個別では如何ともし難い所をどう考えていくのか、広域化でどうにかならないのかということだと思う。広域化ということ考えた時に、地勢や風土といった地域特性をしっかりと把握しなければいけない。また歴史も認識しなければいけない。

神奈川県は日本全国の縮図のような所であり、地域によっては個別ではこの先どうしていくのかと感じさせられる所もあり、そのような所を県としても見ていこうというスタンスは大切であると思う。5 事業者はしっかりやってきたという歴史があり、その流れを基にプランも策定されているので、その方向性は納得できるし、よいと思う。

少し工夫してもらいたい点は 32 ページの 889.6 億円という数値が独り歩きしないように、全体のコストの何パーセントなのかを必ず併記していただきたい。カッコ書きでよいので左側にある数兆円の中のどのくらいの割合なのか、それほど大きな額ではないという見方ができるような工夫をしていただきたい。800 億円というたとえば給料だと大変な額だが、全体に対するパーセンテージでいったら統計的に無視できる位の数値となるので、その点をお願いしたい。

### (小泉会長)

32 ページの表を見ても、私には、管理の一体化とか経営の一体化とか事業統合の効果が出ているとは思えない。しかし、第三者がこの額だけを見たら、いかにもすごい効果があるかのように錯覚してしまうので、そこは注意が必要であると思っている。

全体的な流れはこれで良いと思うし、試算には限界があるため、数値の積算の仕方はこれでよいかと思う。第三者が誤解しないように、工夫していただければと思う。

あとは、神奈川の広域化は、本当に長期的に見て水源に着目し、上流取水を目指すことが大局的には大事だと思う。相模川にしる、酒匂川にしる、下流取水をしており、位置エネルギーが無くなった水を使っているのもったいないと思う。水需要も安定しており、人口が減少又は急激に増加しない中で、本当に取水の位置が今のままで良いのか、長期的なスパンで100年、200年の長さで考えていく、それが大切だと考える。

### (小泉会長)

プランを検討していく上で、現在の水道事業者なしには考えられないので、先ほど説明いただいた水道事業者の意見について、事務局の方から改めて説明いただいて、委員から意見をいただければと思う。

### (事務局)

2点ほど意見をいただきたい点がある。1点目は水道事業者の意見で、2点目は素案の34ページ以降の記載方法・表現方法についてである。

まず1点目の、水道事業者の意見になる。

このプランの作りは、プランの趣旨、シミュレーション、具体的な取組の3つの柱立てになっており、あくまでシミュレーションということで、事業統合・経営の一体化なども含めてシミュレーションを行っている。

このことについて、水道事業者から掲載しないで欲しいという意見があった。これは、実際に事業統合を考えていない事業者が、事業統合をしてしまうのではないかと誤解される懸念からの意見である。

事務局で、プランは、あくまでシミュレーションであることがわかるよう、書き方を工夫しているが、工夫の仕方について、ご意見をいただきたい。

もう1点は、『持続可能な「かながわ水道」』という表記であるが、これは多様な広域連携ということを示しており、誤解を生じないように補足説明を行っているが、ご意見をいただきたい。

(佐藤委員)

34 ページ以降の記載方法であるが、「広域化の効果」は、少し弱いという印象がある。「(b) の共通する効果」にある、事務負担の軽減とか組織強化というのは、他地域の広域化ではこれで十分かと思うが、神奈川県における広域化を考えた場合に、小泉会長から歴史など色々と話があった事を鑑みると、神奈川県が目指す広域化は、より強い水道事業体を構築していくことではないかと思う。

特に歴史的にも、神奈川県内の水道事業者が、日本の水道をけん引してきたという事実があって、今、県西地域等で厳しいようなところが登場している中で、公営であり続けながらも水道という一つの産業形態の担い手として、今まで以上の強い組織体を構築するという、そうしたところが効果として期待される、或いはそうしたところを目指さなければいけないのではないかと思う。

具体的には、自ら律するという方の自律として、企業統治、ガバナンスが充実するという点が、規模拡大或いは組織の広域連携によって図られる可能性がある。もう1点は、先ほどから議論が出ている、財政面での安定或いはコスト削減という自立、自ら立つという面、こうした2つの自立(自律)という観点から、今まで地方公共団体の組織の一部に組み込まれていて、時として、政治的な要因で経営が左右される状況を、今よりは少し進んだ一つの組織体として離れることによって自立的な経営ができるという、こうしたところが、恐らくその効果として出てくるのではないかと思う。或いは、こうしたところを効果として目指すべきではないかと思う。整理が難しいかもしれないが、そうした視点を入れてもらいたい。

続けて37 ページ、今後の広域化の推進方針になるが、先ほど、着地点が見えづらいと指摘した一方で、今回の資料の中で重要なのは、このハイライトされている「水道事業者等の垣根を越えた広域連携をオール神奈川で取り組み、持続可能な「かながわ水道」の構築を目指す」という、ここの理念、考え方を共有すること自体が、広域化として非常に重要なのではないかと思う。

ここを共有化することによって、一部の地域では、多少事業統合等とは離れた形で緩やかに広域連携、或いは、地域によっては広域化をしながら、結局のところ、県民に対する水の供給が持続的・安定的に実現できるような仕組みを構築するという点、こうしたところを目指すという取組自体を進めていくというように整理するならば、先ほど今後のスケジュールの中で、10年間で検討するだけと言ったが、これがその将来に向かっての意識を醸成し、各団体が自ずと取るべき政策に結びつくような方向性の活動になっていく気がする。こういった活動自体をやり続けることをこの推進方針の中に、盛り込めないか、要望としてお伝えする。

### (浅見委員)

34 ページで、3点考えていて、1つ目は経営の強化、基盤を強化して、広域化することによって、一定以上の規模を確保して、というところは、もう少し中身として書ければ良いと思う。

2つ目は、事業者から意見が出ているとのことだが、大規模な事業者からしかほとんど出てきていないというのが実際だと思う。他県でも、力のある事業者は、職員同士でも「この部分は、このように記載できるのではないか。」と庁内で討議できるが、小規模な事業者は、職員の数が少ないため、議論の機会が少なく、他の部署との異動がある場合、水道について強い意見を言うことが難しいような状況になる。そうすると、段々会議の場で発言しにくい雰囲気が醸成されてしまい、どうしても大規模な事業者が意見を言って、他は沈黙という感じになる。

個別に聞くと「こういうところが大変」と言うのがあるが、なかなか意見として言いにくい事業者もあると思う。そういったところが、近くの事業者と共同化することにより、事務が強化されることも利点として入れた方が良いのではないかと思う。困っているところで、事務委任で事務のやり方を共有化するところとか、事業が完全にそこ（一部分）だけが難しくなっているところでは共同化が一つの方向になっていくと思うので、経営の強化と事務的なことの強化というのが必要なのではないかと思う。

3つ目は、今電気料金とか、気候変動の影響に備えて、脱炭素化・カーボンニュートラルが、すごいスピードで世の中に進んでおり、このままだと神奈川県で大きなエネルギーを使用している所は、電力やカーボンニュートラル的な評価で行くと結構厳しい状況になる。上流で取水する形の方が、ずっと有利になるのではないかと思う。

電気料金も上昇しているので、そういった視点でも、共同化して取水の最適化をすることによって、気候変動対策が取りやすくなるし、見直しをするためにも、今までに無かった発想の部分も入れて改善できるチャンスなのではないかと思うので、そういったところも入れていただけるとありがたい。

### (小泉会長)

事務局の方で、その辺を配慮してもらえればと思う。

### (長岡委員)

33 ページの料金指数を見ているが、これだけ見ても効果があるのは、県西部の事業統合のところ、経営の一体化から事業統合で、急に水道料金が下がっている。この表について、個別に評価していないようだが、県西部の事業統合の効果が明確に表れている。

県西部は、明確にシミュレーションで事業統合の効果が出ているため、そのこ



とについて言及すべきではないかと思う。これだけ数字が出ているのであれば、ニュートラルで一般的な記述ではなく、もう少し各圏域の特性というのを考慮に入れた記述にするべきではないかと思う。

それから、37 ページの「オール神奈川」は良いと思うが、各水道事業者が気になっているのは、この括弧がついている「かながわ水道」だと思う。

これは「神奈川県の水道」とか一般的な名称にすれば、問題ないと思う。括弧つきの「かながわ水道」は、神奈川県で一つの水道事業に統合するというイメージで取られるかもしれないので、単なる言葉の使い方になるが、括弧つきの「かながわ水道」は、余計な軋轢を生むのでやめた方が良いと思う。

#### (小泉会長)

この辺は、事務局の方で検討をお願いする。新しい言葉が出てくると、その言葉に流される場合がある。

私からも意見を言うと、39 ページ「イ 広域連携の推進役としての県の取組」に関連するものとして、神奈川県内では、広域水質管理センターなど、具体的に動き始めている。

このような具体的な事例を踏まえながら、その辺を県として推進していくような記載ができると具体性を帯びてくると思う。

#### (事務局)

再度確認したいが、シミュレーションで、いくつかの広域化パターンを示すことは構わないか。

#### (小泉会長)

委員の皆さんよろしいか。

これを行わないと、話の土台が出来ないので、よろしいと思う。

#### (事務局)

次に、37 ページの『持続可能な「かながわ水道」』になるが、県内の全水道事業者に対して浸透させる言葉にしていきたいと考えているが、一方で、ハレーションが生じることも否めない。

誤解を生じないようにするため、37 ページの注釈に記載するような形で対応したいと考えるが、ご意見いただきたい。

#### (浅見委員)

私は、良いキャッチフレーズだと思った。しかし、かぎ括弧で括ると、一つの事業体にすると思えてしまうので、誤解の元になる。

横浜水道のような流れでいくと、「かながわ水道」ということで、全体で考えるというキャッチフレーズはふさわしいと思うが、「かながわの水道」ではなく「かながわ水道」という方が良いのかどうかと考えたときに、固有名詞的に使われているのであれば、その辺の感覚も教えていただけないか。

#### (事務局)

「かながわ水道」については、県庁内でかなり使用してきた言葉で、水道事業者の会議においても、何回か出している。

県民からの分かりやすさからでいうと、目標として一致団結していくというのも必要と考えており、この表現を使用したい。

#### (佐藤委員)

私は、「かながわ水道」という言葉は、広く神奈川県民に水が行き届く仕組みというくらいの認識だったため、あまり違和感を持たなかった。

そうした中で、長岡委員の発言を聞くと、この言葉だけを切り取ると別の事業統合のように受け止められることが気にかかったので、表現を検討する余地があるのかもしれない。

現行は脚注の注意書きで書かれているが、本文に、ハイライトした部分の説明の重要な定義の記載なども含めて検討したらどうかと思う。

#### (小泉会長)

言葉が独り歩きするリスクを感じているので、誤解が生じないよう記載を考えた方がよいと思う。

#### (浅見委員)

佐藤委員の発言のように、神奈川県民の安全で安心な水道のためにというところが皆さんに理解、納得していただければ要望の広がりももう少しあるかと思うが、現行の注釈だと、広域連携が促進されというところが強くなっているので、定義がどうかという話があったように思う。県民目線のような形になれば理解も深まるのではないかと思う。

#### (小泉会長)

委員の意見を踏まえて事務局で検討をお願いしたい。

## 議題(2)スケジュールについて

事務局から資料2により説明

### 【質疑】

#### (浅見委員)

プランは、国から策定期限が示されていると思うが、その前にパブリックコメントを行うのか。

また、広域化の補助金については、申請予定があるのか。

#### (事務局)

パブリックコメントは、資料2記載のように12月から1月にかけてプラン素案について実施する予定。

パブリックコメントでの意見を反映させたものをプラン案として次回検討会でお示しし、令和4年度末までに策定する計画となっている。

#### (浅見委員)

今の状態のものを、パブリックコメントに諮るという理解でよいか。

#### (事務局)

本日いただいたご意見などを参考とさせていただき、素案を改めてとりまとめた上で、パブリックコメントを行う。

現時点では県としての補助金は特に予定していないが、具体的な広域化の動きがあれば、基盤強化計画というものに位置付けが変わってくるので、法定計画の協議会の立ち上げなどを経て、国に補助金を申請することになる。

県としては、水道技術研究センターでA-Batonsという、パソコン上で行う研修があるが、これを県西部圏域の事業者に活用してもらえるようにしており、これに補助金が付くようにしている。

#### (小泉会長)

当面は、技術職員がいない中小事業者の知恵袋に県がなるような流れが好ましい。A-Batonsの活用により、何か検討しようとする時に役立つことは重要だと思うのでよろしくお願いしたい。

#### (浅見委員)

パブリックコメントの前には小泉会長がご覧になるという理解でよいか。

(事務局)

議事録とともに確認いただく予定である。

(小泉会長)

委員の皆さんにもフィードバックしてもらって、パブリックコメントに進めてほしい。我々にとって理解し易い表現を、県民の皆さんにどのように伝えるのが大切になる。

このプランは、考える範囲も広く事務局も大変だと思うが、本日、委員から伺った意見を検討していただいて、パブリックコメントに向けて進めていただければと思う。